

Main Text (The essay must be 1 page in English or Japanese)

Essay Title: これから羽ばたく彼女達のために

Topic Num.:

艶やかな羽織袴が目眩しく、晴れやかな笑顔と高らかな笑い声が溢れる。女子大学ならではの卒業式だろう。彼女達が社会へ飛び立つ門出にこの光景を見守ることが出来るのは、教員冥利に尽きる。彼女達の明るい未来を願うと同時に、これまでの煩勞から救われる瞬間である。

中高一貫の女子校出身の私であるが、大学以降はリケジョー直線であり男性が大半を占める環境で過ごしてきたため、女子大に着任した時には妙な違和感を覚えた。今思えば、男性が多数を占める環境で人生の半分ほどを過ごしてきた間に、私が無意識のうちに身に付けていた感覚がそうさせたのかもしれない。男性にナメられないように、負けないように、変な同情されないように…。生来の負けん気な性格に加えて、圧倒的なマイノリティであったからこそ、いつも心の武装をしていたのかもしれない。彼女達が社会に出てからも、私と同じような思いをしながら生きていくことになるのだろうか。社会に出て心折れることはないだろうか。たくましく生き抜いていくことは出来るのだろうか。彼女達の新たな旅立ちを祝福すると同時に、不安を案ずる親心が芽生える。

近年は女性の社会進出を支援する様々な制度が充実してきている。妊娠・出産を経験し、そして現在は育児と仕事の両立をしている私もこうした支援に支えられてきた。保育所、病児保育、学童の利用は必須として、研究支援者の充当、学内保育室の利用など大学特有の支援も受けてきた。私は近くに頼れる実家や親戚もなく、利用できる制度や支援は藁をもつかむように利用した。こうした支援制度に加えて、周囲の「人」からのサポートなくしては私の生活は成り立たない。どんなに女性活躍のための支援制度が充実していても、その制度を実際に運用するのは人であり、理解ある同僚そして家族に恵まれなければ、出産・育児の一大事を仕事もこなしつつ乗り切るのは困難である。

今から巣立っていく彼女達は自分の能力を発揮できる環境で、協力的な周囲の人々に恵まれ、充実感に満たされた毎日を送ることは出来るだろうか。社会的な支援の整備や多くの人々の理解と協力が一層拡充していくことを期待する。それと同時に、いやそれよりもむしろ、これから訪れるだろう数々の困難に立ち向かい柔軟に対応し乗り越えることの出来る精神と能力を彼女達は身に付けてだろうか。人に流され社会に押されて生きていくことはたやすく、他力本願では自分が欲しいものは得られない。いろいろなことが予測不能で先の読めない時代である。どんなに支援制度が充実し、理解ある協力者に恵まれても、本人の意志とそれを最後まで貫き通すだけの意欲がなければ、現在の厳しい社会はまだまだ乗り越えられない。

大学での研究・授業や課外活動を通して、無理難題にも立ち向かう能力・知識と技術、目標達成のために絶えず努力し諦めない忍耐力、必要な時には助けを求めまた助けを与える協調性を彼女達は身に付けてだろうか。大学で私が直接的に教えることが出来るのは学術的なことでしかないが、その過程を通じてより豊かな人間力の育成にまで繋がることは、教育者としての理想である。また研究の指導の一方で、時を見ては私自身のキャリア形成やこれまでのライフイベントを振り返る話もしている。以前よりも人生の選択肢が増えてきた多様な時代だからこそ、様々な前例を参考にして自分が進む道を見出し、もしその道が今なければ自らで作り出して欲しい。自分で道を切り開く力強さと主体性、そして新たに生み出す創造力を彼女達は身に付けてだろうか。

彼女達の新たな旅立ちに際して、ここに至るまでの成長を共に喜ぶと同時に、私自身が彼女達に何かを残すことが出来たのか自問する。日々の研究・授業、些細な雑談や世間話、何かの中から何かを掴んで欲しい。社会に出る前の単なる猶予期間ではなく、大学でしか出来ない体験をして、大学でしか学べない何かを身に付けて欲しい。そして彼女達により多くの何かを与えることが出来るように、私自身は更に成長していく必要がある。彼女達の姿と自分自身がシンクロする。

充実感に満たされた華やかな卒業式を待ち望み、更なる成長を目指し毎日を過ごす。彼女達が待っている。